

# 山崎怜先生を送る

井原 健雄

山崎怜先生は、平成6(1994)年3月31日をもって、本学部を定年により退官された。先生は、昭和5(1930)年12月に香川県高松市幸町にお生まれになり、昭和23年(1948)年に高松経済専門学校本科に入学された。昭和24(1949)年7月には香川大学経済学部経済学科に入学され、昭和28(1953)年、同大学を卒業後、神戸大学大学院経済学研究科に進学され、昭和30(1955)年12月に本学部の助手として採用された。その後、昭和31年3月に神戸大学大学院経済学研究科修士課程を修了され、以降、昭和32(1957)年12月講師、昭和35(1960)年3月助教授、昭和42(1967)年7月教授とそれぞれ昇任され、本年3月のご退官まで、実に38年の長きにわたって本学の発展のために尽くしてこられた。

この間、先生は、ご専門の財政学と経済学説史の研究並びに教育において、多大の貢献をされた。とりわけ、研究の分野においては、アダム・スミスの研究を基軸として、財政学と経済学説史の両分野にまたがる財政思想史の研究者として、数多くの論文と著書を発表され、この分野におけるわが国の研究を常にリードしてこられた。スミス財政思想史の研究における画期的な業績として、次のことが指摘される。その第1として、租税利益説が、個別的利益説と全般的利益説に区分されるべきであり、スミスの立場は、その後者に当たるものと主張されたこと、第2は、スミスの安価な政府論の研究において、スミスの安価な政府が、相対的な安価な政府であることを明らかにされたことである。なお、この点に関して、香川大学経済学会より平成6年7月に刊行された『《安価な政府》の基本構成』(香川大学経済研究叢書8)と題する先生の著者の中で、“《安価な政府》の用語を宝さがしのように求めつづけて40年になる……”という深遠な叙述が印象深い。

また、先生は、教育の分野で、特にその演習において270名に及ぶ学部学生及び大学院学生の教育と研究指導に当たられ、その薫陶を受けた卒業生は、現在、各界各層において大いに活躍している。

さらに、先生は、学内行政の面でも多大な功績を残された。昭和49(1974)年以降、評議員を通算7期にわたって務められたことに加えて、昭和55(1980)年香川大学附属図書館長を、また、昭和63(1988)年4月には学部長並びに大学院経済学研究科長を併任され、その重責をそれぞれ2年間にわたって果たされた。

他方、学外においても、日本財政学会では長期にわたって理事をされるとともに、財政思想史の研究部門にあつては、研究発表はもとより、討論者や座長を数多く務められた。また、経済学史学会から推挙されて、平成3(1991)年7月には日本学術会議会員に任命され、第1常置委員会委員となられて、日本学術会議に関する多忙な任務遂行のために鋭意努力を傾注された。さらに、先生は、本務に支障のきたさない範囲で、名古屋大学大学院経済学研究科や九州大学大学院経済学研究科等の非常勤講師を引き受けられ、本学の学生のみならず、広く他大学の学生に対しても、その教育指導にひたむきな情熱を注がれた。

以上のような先生の多大なご功績に報いるために、香川大学では、平成6(1994)年4月に名誉教授の称号をお贈りしたところである。

末尾ではあるが、先生を語るに忘れてはならないことがある。先生は、音楽や文学をはじめ豊かな文化的趣味の持ち主であるということである。寸暇を惜しんで村山篤子に関する資料の蒐集や高松高等商業学校の初代校長である隅本繁吉先生の思い出を纏められるなど、特に歴史的史実の再現にその優れた才覚を発揮され、その継続した努力と熱意に対して驚愕の念を禁じ得ない。

先生には、今後とも、ますますご健康で更なるご活躍を祈念致すとともに、わが経済学部の発展のためにも、どうかよろしくご指導ご教示を賜りたく心からお願い申し上げる次第である。